

mamacha music column

Najki's Eye

vol.2 きゃりーの世界征服



NAIKI AKIRA
内記 章

1953年 東京生まれ。音楽ジャーナリスト。小学1年の時、父親の転勤で札幌へ。札幌北高、日大卒業後芸能プロダクションを経て1976年より、札幌で音楽業界紙の記者となる。1982年、オリコン入社、札幌支局長勤務の後、2001年より東京本社勤務。広報企画部長、執行役員歴任の後、2005年同社を退社。2006年札幌でオフィス・ナイキを設立。音楽ジャーナリストとして、新聞、雑誌連載を始め、テレビ、ラジオへのレギュラー出演や、音楽専門学校講師のほか、オーディション、コンテスト等の審査員、各種コーディネイトやプロモーション等で幅広く活躍中。

〈オフィスナイキ ホームページ〉
<http://office-naiki.com/>

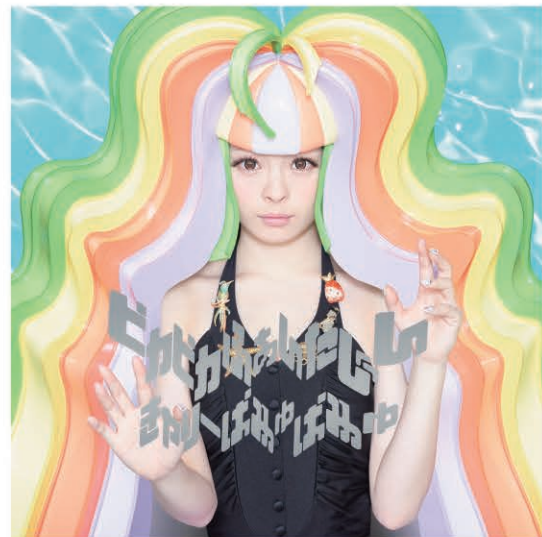
著書



「北の音楽戦士たち」
(中西出版)

北の「音楽業界」今、昔と北の音楽戦士たち27人。豊かな土壌で実った北の音楽事情とは。

今月の一枚



「ピカピカふぁんたじん」

きゃりーぱみゅぱみゅ

(ワーナーミュージック・ジャパン 2014年7月9日発売)

これまでも2枚のアルバムが世界配信され動画サイトなどでも好感触を待たせきゃりーぱみゅぱみゅ。昨年からはワールドツアーにも挑戦し、2回目の今年には米5都市を含む世界11カ国で、15都市3万5千人を動員する快挙を見た。そこで満を持してのCD世界展開となったのだ。きゃりーの新作「ピカピカふぁんたじん」がアメリカ、イギリス、フランス、オーストラリアなど世界4大陸15カ国・地域での夏同時期発売された。これは世界の人気アーティストと同じ扱いというすごいことだ。日本ではもちろんオリコンアルバムランキングで初登場首位を獲得している。ポップでキッチュでファッショナブル。まるでアニメかゲームのキャラクターのようなきゃりーが、中田ヤスタカの斬新なサウンドに乗せて繰り広げるパフォーマンスには、子供から大人

まで魅了されてしまう。彼女の歌は歌詞というより言葉自体が音として面白く響くから、いやでも耳に残る上、あのビジュアルとキャッチーなメロディーが与えるインパクトには強烈なものがある。きゃりーが体現する「Kawaii」は世界中を虜にしたようだ。ママもキッズも、もしかしたらおばあちゃんも一緒に楽しめる。そんなポップ・アイコンの登場は世界中で歓迎される存在なのだろう。しかし何度口にしてもきゃりーぱみゅぱみゅのアーティスト名はしゃべり手泣かせだ。生来滑舌の悪い私は、何度ラジオで囁きそうになったことか。学校の生徒たちにはきゃりーPOPで見逃して貰っている始末。だが、今や世界中の子どもたちがまわらぬ口でその名を呼ぶようになるのだ。きゃりーの世界征服は始まったばかりだ。